

# 安寧



毎月、月次祭(1日、15日)に舞われる齋庭の舞(式神楽)

ホームページアドレス <http://www.himeji-gokoku.jp/>

兵庫縣姫路護國神社社報  
 「安寧」第八号  
 発行所 兵庫縣 姫路護國神社  
 〒六七〇〇三 姫路市本町一八  
 電話〇七九一二四一〇八九六  
 安寧(あんねい)：世の中が穏やかで平和なこと

## 英霊の言乃葉

神風特別攻撃隊

第一護皇白鷺隊 姫路空分隊長

海軍大尉 佐藤 清命

昭和二十年四月六日  
 沖繩周辺にて戦死  
 大分県出身三十七歳

姫路空宛御手紙、基地にて四月一日拝受、感激深く読みました。今更何を申す事がありませう。

只管天壤無窮神州不滅を確認し、必死必中誓って、皇恩に報い郷恩に応じ、家名の全からんを欲し、驕敵撃滅の神機に投ずるのみ。

後事は只貴女様を信じ、何の言うべき辞もありません。

御言葉の生まれ出る赤ちゃんの名前は如何。

男なら 佐藤 勝利 (カツトシ)

女なら 佐藤 征子 (セイコ)

昌志や優子殿元気で、素直な立派な日本人に育っておくれ。

ご一同様の御長久と御隆昌を祈って居ります。では左様なら。



# 秋季例大祭

十一月二日秋季例大祭が、秋晴れの中盛大に執り行われた。我が国の自存独立が危うくなつたとき、常に矛をとり第一線に赴いた兵がいた。彼等は国家の命ずるところに殉じた。命をかけて国を護り、郷土を守り、家をまもり、近代日本の礎となつた将兵たちをたえ、霊を慰め安らかに鎮まるのを祈る。それが護國神社であり、この大祭の意義である。



宮司以下祭員の玉串拝礼

# 新年万灯祭

午前零時、太鼓の響きと同時に提灯が順次点灯し、新しい年を迎えた。初詣に訪れた参拝者からは拍手と歓声があがり、境内は二千余の提灯で暖かく照らされた。



巳年の大絵馬

その提灯を見て「とても綺麗」「こんな綺麗な所があるなんて知らなかった」という若者達



列をなす参拝者

の声が開こえてきた。晴天に恵まれた元日は、例年よりも多くの人が参拝に訪れ、参道は夕方まで列が途切れることがなかった。

# 奉賛会新年祈願祭

一月十四日奉賛会の新年祈願祭が執り行われた。三宅会長が「平成二十四年の事業も順調に進み、会員も現在二百五十名を越えています。これは日頃の皆様のご活躍によるものです。これからも、なお一層のご支援の輪を広げて頂ければ幸いです。」と挨拶され、その後、廣畑天満宮の三木通嗣宮司



三宅会長による挨拶

が「お伊勢さん」という題目で講演された。今年、式年遷宮を迎える伊勢神宮について、とても興味深いお話であった。一部紹介すると、「十二、三歳頃までに神話を学ばなかった国は滅ぶ」と言った歴史学者のアーノルド・トインビー博士が昭和四十二年伊勢神宮を訪れて、「全ての宗教の統一性を感じる。ここは古代ギリシャと



三木宮司による講演

表紙の写真について  
齋庭の舞（式神楽）は誠に清め、鎮魂の意味があり、毎月一日と十五日の午前十時に執り行われている。  
ご覧になりたい方は参拝に訪れて下さい。  
どなたでも、ご覧になれます。



同じ感覚がある。」と感想を述べられた。しかしそれを聞いた、皇学館大学の田中卓氏は伊勢神宮は現在も欠かさず命が生きている。古代ギリシヤの神殿は現在廃墟である。そこに、元々の古代ギリシヤの心というのは存在しない。

しかし伊勢神宮には現在も祭祀が続いている。つまり、日本の心が現在も生き続けているということだ。その伊勢神宮とギリシヤを同等に見るのはおかしいと、トインビー博士に指摘すると博士は、自分の間違いを訂正された。

日本人の心の原点は神社にあると言つても過言ではない。そして我々は、ご先祖達が受け継いできた「日本の心」を次の世代につないでいかねばならない。そういうことを強く考えさせられる講演内容だった。

その後、姫路駐屯地司令の天本博文一等陸佐がお話された。「駐屯地司令ではなく、部隊長としてお話をさせていただきます。私も部下を亡くしています。訓練中に亡くなったとはいえ彼らも日本のために命をおとしたわけです。国民にはそんな人がいると知ってほし

いと共に、亡くなった人を国民が慰霊するということも必要だと考えます。」今も、昔も命をかけて国を護る人がいる。そして、その人達のお陰で我々が生きていける。そう感謝できるのが「日本の心」ではないだろうか。

(記述 前川)

## 建国を祝う祭典

神武天皇様が即位をされてから二千六百七十三年目を祝う催しが行われた。参集殿では日本会議による榎原神宮のいわれなど、建国の日にちなむ講演会が行われ、百名を越える方々が熱



心に聞き入っていた。つづいて本殿では神事が行われた。祭典の始まる十一時には、松本剛明衆議院議員、兵庫県会議員、市議員など公職の方々を始め、着物姿のご婦人、学生服の青年、老若男女で二百名を越えた。祭典を終了後、日の丸の小旗を打ち振りながら、建国を祝う会主催により、式典が催された。この日は一日をお祝いの気持ちで過ごそうということで、霊友会有志の方々により、温かいおうどんの販売、参集殿では手作りのケーキや、飲み物での喫茶コーナーがあり、終日楽しい笑い声でお国の誕生日を祝った。



## 「英霊の言乃葉」の解説

加西市・鶴野飛行場から、神風特別攻撃隊白鷺隊を率いた佐藤清大尉が奥様に宛てた遺書を掲載した。

昭和十八年十月、姫路海軍航空隊(通称「姫空三」)が置かれた。姫空は優秀なパイロットを養成する部隊で、訓練を終えた隊員が全国の航空隊に赴任していった。

また、昭和十九年、川西航空機(現在の新明和工業株式会社)鶴野工場が開設され、姫路製作所(現在のJR播但線京口駅東側)でつくられた零戦の後継機「紫電」、「紫電改」の機体を、鶴野まで運んで組立、試験飛行を行い、海軍に引き渡された。

昭和二十年二月十日、戦局の悪化により、姫空からも特攻隊の志願者を募ることとなり、「白鷺隊」が編成された。三月二十三日、鶴野から出陣。四月六日、鹿児島県の串良基地から六回にわたり出撃し、沖縄周辺の米軍艦艇に対し、飛行機もろとも体当たり攻撃を加え、佐藤隊長以下六十三名が戦死した。

今年には姫路海軍航空隊の開隊から、ちょうど七十年を迎える。現在も、長さ千二百メートル、幅六十メートルの滑走路跡が奇跡的に残されている。周辺には、別れの盃を交わしたエプロン、防空壕や爆弾庫、地下指揮所、機銃座などが当時のまま存在し、北条鉄道法華口駅から歩いて散策することができる。

末筆ながら、「英霊の言乃葉」掲載にあたり、鶴野平和祈念の碑苑保存会の上谷昭夫氏にご協力いただいた。今年十月六日には、海上自衛隊阪神基地隊の支援により特攻戦没者追悼式が行われる。

# 国家観と生活観と

参議院議員

## 有村 治子

私の政治家としての原点は、滋賀県議だった父が浪人していた高校生の頃にさかのぼります。父が落選してからというもの、「有村先生」と父を慕って下さった方々の姿を見かけなくなり、「有村っ!」と呼び捨てにし、あからさまに見下す態度を取る方が少なからず現れました。その一方で、暮らしの術をなくした我が家の前に、「畑で取れました。どうぞ」との走り書きとともに白菜や大根を置いてくださる篤志家もいらつしやいました。父が御礼をしなくても済むように、敢えて名前を書かずに届けて下さった野菜を食べて、私は育てて頂きました。「肩書き」を持ってないことの悲哀と、それを冷徹に評価する社会の現実をまざまざと見せつけられるとともに、人の情けと「格」を意識するようになった経験でした。

父は仕事を失ってから、きつと深く眠れなかったのでしょうか。なぜか、早朝からNHKラジオで英会話講座を聞いていました。浪人中の四年間、用事も来客もないのに、父は毎日スーツをまとい、夜になると風呂で、その日のYシャツの襟の汚れをブラシで洗い続けました。その後ろ姿は、父の無言の悔しさと明日にかける執念を感じさせ、私は誇りに思っていました。毎晩、風呂場に響くシャカシャカという音が、色々うまくいかず、心が折れてしまいそうになる家族の暮らしに、一本の軸を通していたのだと思います。

議会人として、天皇皇后両陛下に陪席させて頂く公務や、各国のトップリーダーと朝食を囲んだり、世界市場で勝負する企業経営者との意見交換を重ねたりする一方で、路上生活する人々、DV(家

庭内暴力)や虐待の被害者を匿うシェルターを訪ねることもありました。どのような立場にある方も、他人には知られたくない体験や悲しみ、難題を背負いながら、それが懸命に生を繋ぐ努力をされていらつしやいます。それらの現実を目にする度に、おのずから頭が下がります。

これらの得難い経験は、私の「しつかりとした国家観と、地に足のついた生活観を併せ持つて課題解決を図る」という信念を確固たるものにしていきます。「何を言うか」はもちろん大事ですが、「誰が言うか」はそれ以上に重要な要素です。日々の言動・行動に信用のない人が崇高なことを説いたところで、リスクを負ってまで行動を共にする人は少ないのが現実です。役職や立場を超えて、常に言行一致の高い信用力を保っている人が影響力を広げていると思うのです。

ゆえに、私は国家の未来に仕える誇りを胸に、なるべく質素な生活に心がけています。ある先輩議

員からは、「有村さんの思想は保守やけど、暮らしぶりは共産党より質実剛健やなあ…」とコメントされたものです。やはり「貧すれば鈍する」では、自由な発言権は保てません。

「誠実・堅実・実直であること」を行動基準とし、天を仰いで、神さまと自分の生き方にウソを付かなければ、大きな選択において、人の道を外れることはない、と確信できることは、自分自身に安定感を築く上で、非常に有り難い指針となっております。

東日本大震災を経験して、特別なハレの日だけでなく、何気ない、何も無い日常こそが、実はかけがえない、幸せの原点そのものだと日本民族全体が改めて記憶したのだと思います。その日常の平穏が再興し、国民一人一人が一秒でも永く享受できるように、議会人としての務めを果たさなくてはならない、と常に自らに言い聞かせています。

(神道政治連盟国会議員)

懇談会 副幹事長

# 英霊を敬い偲ぶ心に国境なし

自衛隊兵庫地方協力本部長

一等陸佐 服部 正

「先程、あの場所では何をしていたのか？」詰問に近いやや強い口調で米国海兵隊の二等軍曹が問いかけてきた。十年以上前の平成十三年夏、台風一過の七月中旬、私は米海兵隊の太平洋諸島における転地演習研修の為、米国領グアムをはじめ北マリアナ諸島、ティアン島、パラオ共和国ベリリュー島などを海兵歩兵大隊に同行し、訪れていた。大東亜戦争における激戦の地であり、多くの日米両将兵が亡くなり、尚多くの遺骨が残されていることが念頭にあったため、何かしら現地において慰霊が出来ないものかと同行された先輩幹部と相談の上、靖國神社に詣で心身を清めるとともに御神酒をはじめ慰霊の供物などを求め携行することとした。

現地では、海兵隊の訓練研修の合間に各地にて線香を焚き、御神酒と御紋入りの煙草を供え、御霊の安らかならんことを祈念して合掌するという、たった二人だけの慰霊祭を実施した。ティアンで五十年以上前に生じた激戦と丁度同じ七月に彼の地に居ることを踏まえ、穴を掘って持参した靖國の桜入りのお守りを埋め、その上で線香を焚き、煙草を供え合掌していた時にスコールが降った。そのスコールの中でずぶ濡れに成りながらも、やや長い間、合掌黙祷する日本人二名を不審に思ったのか、米軍と合流した直後、冒頭の質問となったようだ。

「自分の親族の一人が太平洋のどこかで先の大戦で国に命を捧げた。今回、この地を訪れることができたので行く先々で慰霊を行ってきた。不幸なことではあるが、多くの日米両将兵が夫々の国の為に、この地で亡くなったことに対し、心から哀悼の意を表し、御霊の安寧を祈念していた。」と、応えた。するとその軍曹は、「自分の祖父も日本軍との戦いで戦死した。自分はその意思を継いで海兵隊に志願した。」と厳しい表情で短く言葉を返して来た。しばらく互いに無言であったが、彼の方から「両方の兵士のために祈っていたのか？」と確認のような更問があったので、「そうだ。先の大戦で我々の祖父の代が、お互い敵味方として戦ったのは事実であり、残念なことではあるが、今こうして後世を担う我々が出来ることが、双方の英霊を分け隔てなく敬い弔うことだと思う。」と相手の眼をしっかりと見据えて応えた。得心したのか否か判らなかつたが、その後、彼は無言で私の傍を離れ、来た道を帰って行った。後日、蠅がブンブン飛んでいる簡易食堂での夕食を終え外に出た時、前方から彼が近づいて来て敬礼をし、「サー。私も両軍の兵士の為に祈りを捧げてきました。」と和やかに話しかけて来た。「そうか、それは善い事をしたな。明日も暑いが頑張ろう。」と言いながら堅い握手を交わした。彼は海兵隊員特有の掛け声である「ウラーッ」と声を出しながら敬礼し去って行った。

このことは、その後の靖國神社への参詣に影響を与えている。各国で歴史・伝統・文化は違えども、先達に対する敬いの心、特に国に命を捧げられた英霊に対する敬い、感謝、偲ぶ気持ちというものは、本来万国共通のものであり、それは同時に他国の英霊に対しても向けられるべきものであると考えるようになった。それ以来、私は積極的に日本に来た外国の軍人・客人などには説明した上で、決して無理強いはいはしないが、靖國神社参拝をお誘いしている。靖國を伴に詣でた人は、神聖な雰囲気を感じ入るとともに、都会の中心部ともいえるべきアクセス容易な立地に羨望し、春の桜の宴が催されていることに驚きを禁じえない様子である。これらの経験を通じ、個人的に最も大切だと思ふことは、私たち自身が常日頃、国に命を捧げられた英霊の御霊の安らかなることを願い、靖國神社をはじめ各地の護國神社に意識的に家族とともに参詣し、その心を次の世代に引き継いで行くとともに、他国の人々に対して自信と誇りを持って紹介することではないかと。



# 神様とお酒と私

兵庫縣姫路護國神社崇敬奉賛会

常任理事

本 田 眞 一 郎

私は酒屋に生まれたものですから、酒造りが生活の中にあるのが当たり前で、秋も深くなると酒造りに、杜氏と呼ばれる酒造りの職人が多くがやって来て、約半年間お酒を造り春になると帰って行く。私にとっては普通の事なのですが、よくよく考えてみると家の周りに人が増えたり減ったりする変な家庭環境なのでしょう。また、家の中に多くのお社があり、毎月一日には全部のお社にお参りをします。なぜこんな習慣があるのかと考えてみますと、酒屋だからと言うことが大きく影響していると思われま

す。神様とお酒の関係を考えてみますと、「御神酒あがらぬ神は無し」と言う言葉がありますように、神祭、神事には必ずお酒を飲みます。神祭でお酒を飲む意味を考えてみますと、神との共飲共食という意

味があります。これは神と同じ酒を飲み、同じ物を食べる事により、神の霊力が分与され、神の啓示を聞く事が出来ると言う信仰に基づくものであり、御神酒は精神的、宗教的、心理的効果を持つものと言う事が出来ます。

酒造り神事と酒神信仰を考えてみますと、精神的、宗教的、心理的効果を持つ神酒でありますから、神祭を行うにはまず、神酒をつくる酒造りの神事が先に行われます。微生物学的に高度な技術を要する、酒造りは誰にでも簡単に出来るものではなく、その成果を神にゆだねるしかありませんでした。さらに酒の出来栄えにより、その年の豊凶を占う酒占いと言う神事も行われた為、酒神への祈願は大変重要なものとされておりました。

米作りに始まって、酒造りから、飲酒まで酒全般を司るのが酒神で

あるという信仰は今も失われていないようです。

このように神の力を借りて造られた神酒ですので、神祭において神酒は高貴な神饌とみなされておりました。このような神酒ですから、昔は神事のときしか飲酒が許されませんでした。庶民にとっては神事が行われる日が飲酒する事を許されたハレの日で、日頃の労働から開放され、肉体的、精神的な安らぎを得ることに役立っていたのでしよう。

現在ではハレの日しか飲酒が許されないなどということは有りませんが、精神的、肉体的な安らぎが得られる致酔飲料として役立つている事は昔も今も変わらないのではないでしようか。

このような習慣のある業界なので、水の神様、火の神様、酒造りの神様、蔵を守って頂く神様、天の神様、地の神様 等々生活の中に色々な神様が居られるのでしよう。

現代の技術で考えてみますと酒造りは決して神頼みではありません

ん。お米の酒造適性はどうか、精米歩合はどの位が良いか、お米の吸水歩合はどうか、蒸米時の圧力は、時間は、麹菌は、酵母菌はといろいろ検討しながら酒造りをしております。しかし、一番原点のお米はどうして出来るのか、空気中にある二酸化炭素と水などが何故デンブンになるのか、それを麹は何故ブドウ糖まで分解するのか、ブドウ糖になれば酵母菌が何故アルコールまで分解してくれるのか、一番の元は解っておりません。将に神のなせる技と言わざるえません。

自然と共に生きる、自然を人間の都合で制御するなど出来ないことなのでしよう。日本酒の文化の中に自然と共に、神の御加護を頂いて等の考え方があるのは、この様な事を連綿と続けている業界なのだからではないでしようか。やはり、お酒は神頼みなのでしよう。

「神の御加護を頂いて、

日本酒で乾杯」

(株式会社 本田商店 代表取締役社長)

# 大自然の恵みに感謝

兵庫縣姫路護國神社崇敬會

常任理事

谷川 永久

田舎生まれ、田舎育ちの私にとつて大自然は恵の宝庫、家の周りには豊かな田園が広まり多くは稲作だが野菜畑も多い。

減反政策実施以降の田園風景は、がらりと変わり遊休農地を「趣味の菜園」として開放している。元氣な老人が仲間を誘い、毎日のように菜園に来て季節の作物を作っている。趣味の菜園は老人の社交の場を呈している。そのような風景を見ているとなぜか平和を感じる。

一粒の種から豊かな恵みに変化する、その様を細かにみてみると「育てる」から「収穫」に至るまで喜びに満ちている。また「生命体変化の驚異」を感じ

に実を結ぶことになる」この文章の意味するところは前後の文章を読まないと分かりませんが、単純に一粒の麦を考えるとみましょう

道端に落ちた麦は野鳥に食べられてしまうかもしれない。人に踏みまじられるかもしれない。畑と言う麦に適した場所に蒔かれた時、一粒の麦は季節を選び、適度な肥料、水分を得てやがて芽を出す。この時、一粒の麦はその命を子孫に託し、自身は死んで芽を出した新しい命の栄養分になる。収穫時期には一粒の麦から数百の麦が増える。老人は、自分が蒔いた種がやがて立派な作物になることを信じて畑仕事をしている。育てる段階では除草など苦勞はあるものの、ぐんぐん生長する様を、喜びをもつて見ている。

それは、また、やがて来る豊かな実りを信じているからです。

身を犠牲にして子孫の繁栄を願うことは大自然の営みです。植物にも、動物にも命があります。その命は尊い、雑草とか害虫とかにも命があります。この世に不要な命はありません。雑草、害虫といえども他の生物にその命を与えています。

我々人間といえども、生物である以上他の命を毎日頂きながら生きています。

我々人間は、全ての生物の中で、一番身勝手な生き方をしてる生物です。人間には知恵があり大自然を身勝手に利用している。大自然を支配しているかのようにも見えます。

畏れ多い事です。大自然の恵みに感謝する事さえ忘れてはいまいか。

大自然の営みを小さな子供にもわかるように話聞かせることが大切です。命を大切にすることが忘れられてはいまいか。この教育は何も学校だけではない。

広く社会全般で全ての人に、大人も子供も命の大切さを学ぶ機会を持ちたいものです。

一つの例ですが、学校でウサギを飼っている。子供が生まれると親は外敵に向かい、身を犠牲にしても子供を守る。食べている餌はすべて他の命を頂いている。生徒には、眺めるのではなく、じっくりと観察して欲しい。これが生きた教育と言うもの。

命の大切さとともに、身を犠牲にする心も神様への約束事として教え、また学びたいものです。

神さまはどこにおられる？全ての人の心の中におられます。悪い事をするとお叱りがあり、心が痛みますね。良い事を行ったときは、静かに心の中にしまいいこみましょう。神さまは見ておられます。

喜びを与えられたとき、また、心が痛んだとき、姫路護國神社に詣で静かに祈りましょう。喜びは倍になります。心の痛みも取り去ってくださいます。

# 日誌抄

二十四年十一月  
二十五年三月

- 平成二十四年
- 十一月 四季大祭
- 十一月 日本会議講演会
- 十一月 姫路市遺族会役員会に出席
- 十一月 稲美支部大麻旗布式に出席
- 十一月 朝来分会慰霊祭
- 十一月 神社総代会
- 十一月 黒田庄町慰霊祭
- 十一月 佐用分会慰霊祭
- 十一月 伊勢神宮へ
- 十一月 木鶏クラブ二十五周年に出席
- 十一月 姫路地区神社関係者大会に出席
- 十一月 関西電力エネルギー懇談会に出席
- 十一月 新穀感謝祭
- 十一月 新穀感謝祭
- 十一月 鳥居給馬作成
- 十一月 兵庫県神社庁姫路支部役員会総会・鳥居給馬作成
- 十一月 兵庫県神社庁支部長会理事会・教化委員会に出席
- 十一月 崇敬奉賛会運営委員会
- 十一月 城巽老人会清掃奉仕
- 十一月 百名清掃奉仕・正式参拝
- 十一月 試験点灯
- 十一月 大祓式除夜祭
- 平成二十五年
- 一月 歳日祭
- 一月 姫路剣道連盟参拝
- 一月 姫路遺族会・兵庫県神社庁姫路支部参拝
- 一月 日本会議新年祈願祭
- 一月 崇敬奉賛会新年祈願祭
- 一月 古札焼納
- 一月 赤穂市遺族会慰霊祭
- 一月 姫路工業高校インターシップ
- 一月 姫路地区神社総代会常任理事会に出席
- 一月 神道政治連盟・参議院議員有村治子氏支援会出向
- 一月 建国祭二百名参列
- 一月 崇敬奉賛会運営委員会
- 二月 近畿地区教化会議に出席
- 二月 全国護國神社(靖国神社)に出向
- 二月 全国護國神社(靖国神社)
- 二月 日本会議講演会(宮司)
- 二月 崇敬奉賛会運営委員会
- 二月 賀堂流碑祭
- 二月 久崎地区慰霊祭
- 二月 加東市慰霊祭百名
- 二月 神社総代会

## 崇敬奉賛会会員募集

日本のために戦ってくれた  
英霊を大事にしたいと思う人  
先祖を敬う心を持っている人  
見えないものを受け継いで  
いきたいと思う人  
奉賛会に入会して神社を  
支えて下さい  
我々と共に英霊に感謝し  
そして汗をかき、  
涙を流しましょう

奉賛会事務局  
〒670-0012  
兵庫県姫路市本町118  
電話 079-224-0896  
<http://www.himeji-gokoku.jp/housankai/>



## Shirasaginomiya 美しい白鷺宮の 結婚式

一日一組限定

### 「和」の邸宅ウェディング

奉賛会会員様限定特典

1. 衣裳2点目 **20%OFF**  
たとえば10万円の衣裳が8万円! ワンランク上の衣裳に!!
2. モーニング、留袖レンタル **20%OFF**
3. ウェディング生ケーキプレゼント

#### 婚禮受付相談室

TEL. 079-224-0559  
受付時間 10:00 ~ 17:00 (火曜定休)  
E-mail. [info@shirasaginomiya.com](mailto:info@shirasaginomiya.com)

無料相談会開催中\*予約制

※詳しくは婚禮専用HPにて  
<http://www.shirasaginomiya.com/>